

近年における日本国債発行と信用

齊藤壽彦（千葉商科大学）

税収不足と歳出膨張の下で 1998 年度（平成 10 年度）以降、我が国は国債の無制限的発行体制に移行した。今日、日本国債の信用が維持できるかどうかが重要な問題となっている。この信用については、国債の国債市場からの受信と、国債市場の国債に対する授信の両面を検討する必要がある。本報告では、近年における日本国債の信用に関する研究史や資料を渉猟しつつ、その現状と将来見通しを実証的に明らかにしたい。

本報告においては、まず、日本国債の現在における信用度を明らかにする。

本報告は、日本国債の受信構造を明らかにすることに重点を置く。国債の支払約束の履行の可能性に関する国債の信用度を規定する要因には、政治、経済、対外関係、財政、金融など様々ある。国債の受信は特に財政の維持可能性を基礎としており、租税収入や社会保障費などを中核とする財政の歳入歳出の構造とその見直しについて立ち入って述べる。

国債の信用は、財政に対する国民の信認、国債市場を構成する金融機関、投資家、国民の財政に対する信認の意識の度合いによっても規定されている。この信認の維持のためには、その基礎をなす財政収支均衡の達成という実態とともに、政府が国民に対して財政健全化を約束すること、国債市場参加者に対して財政や国債に関する説明責任を果たすこと、政策担当者が国民から信認されるような姿勢を堅持すること、国民が財政に対する認識を向上できるようにすることなどの政策対応が重要となる。

本報告では、日本国債への授信構造にも言及する。貸出や資本証券投資が可能な資金の需給構造を考察し、特に、発行された国債がどのように消化されていったのか、現在の国債消化構造が今後も持続するかどうかということについても言及したい。国債消化が困難となれば、国債の利払い増加が財政悪化を招き国債の信用度を低下させることとなる。

国債の信用の維持、そのための財政信認の維持が今日喫緊の課題となっている。だがこれを経済成長との両立を図りつつ行う必要があるということも指摘したい。

【参考文献】

齊藤壽彦「近年における日本国債発行—信用と財政信認の視点から—」『政経研究』第 100 号、2013 年 6 月。

——「無制限的発行下における日本国債の消化構造」『千葉商大論叢』第 51 巻第 1 号、2013 年 9 月。

——「日本銀行券に対する信認問題—日本国債の無制限的発行との関係を中心として—」関西学院大学『経済学論究』第 68 巻第 1 号、2014 年 6 月。

中島将隆「1990 年以降の財政膨張と国債発行の特徴」『証券経済研究』第 73 号、2011 年 3 月。